

# 会員企業対象に新人研修 業界の基礎知識学ぶ 会社枠超え人脈づくりも

## 府建設業協会

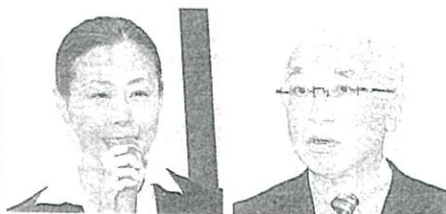
（一社）京都府建設業協会（岡野益巳会長）が主催する30年度新入社員研修が18・19日の2日間、亀岡市の旅館「京都・烟河（けぶりかわ）」で開かれ、会員企業の新入社員ら45人が

業界の基礎知識や仕事に取り組む姿勢を学ぶとともに、会社の枠を超えた人脈づくりに努めた。開催にあたって同協会労務経営委員会の絹川雅則委員長が「我が業界の先輩方は、人々が生活するうえでの基幹となる道路や橋りょう、住宅などの整備にプライドと誇りを持って携わり、国の基幹産業を支えてきた。この業界にみなさんを迎えることができ、大変あ

りがたい。優れた経験値を持った先輩には勝てないと思ひ悩むことがあったとしても、年齢差が10年、20年あるなら、10年後、20年後には必ずその人の側まに辿り着ける。みなさんの努力も必要だが、モデルとなる先輩を見つけた時点でもう大丈夫であり、心配する必要はない」と激励の言葉を贈った。

研修の初日は、ナレッジボックスのキャリアカウンセラー、田辺直子氏が情報共有の大切さや社会人に必要なビジネスマナーについてグループワークで実践する形式で講義した。参加者は、初対面同士で戸惑いながらも徐々に打ち解け、楽しみながら学んでいた。田辺氏は、仕事をするうえで守らなければならないこととして▽時間厳守▽職場に合った服装▽整理整頓▽安全管理▽健康管理▽公私の区別▽情報漏洩防止―を挙げ、それぞれの留意

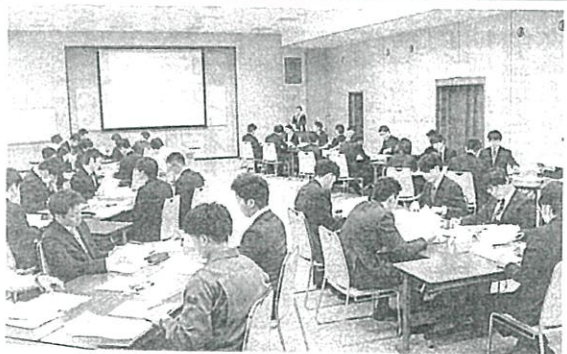
点を指摘した。2日目は、ランパス代表の東和博氏が建設業や安全管理の基礎知識などを講義した。この取組は、25歳以下または入社5年以内の者を対象に、建設業界への理解を深め、チームワークの大切さなどを学ぶために毎年開催している。一泊二日の合宿形式で、寝食を共にするため、交流がより深まると評判を呼んでいる。



講師の田辺氏



挨拶する絹川委員長



亀岡市内で開かれた新人研修



グループワークで自己紹介をする参加者

# 30年度新入社員研修を開催 建設人としての基礎学ぶ

## 京都府建設業協会

一般社団法人京都府建設業協会(岡野益巳会長)は

18日、30年度新入社員研修を亀岡市本梅町の京都・烟

河で開催。初日の18日はビジネスセミナーとコミュニ

ケーションの基本などを中心に学んだ。一泊して19日は建設業の基礎知識や安全

リスク管理などを学ぶ。新入社員研修は会員企業

の25歳以下又は入社5年内の社員が対象で、今回は45人の若手社員が参加した。



絹川雅則 京都府建設業協会委員長



田辺課長(ナレッジボックス)

絹川雅則京都府建設業協会委員長が冒頭挨拶に立ち、「まず最初に、この業界に入っただけで誇りがとつ」

「皆さんの先輩方は静かなプライドと誇りを持って、道路など都市生活の根幹となる足元を支えている」

「基幹産業であるこの業界に若い皆さんをお迎えすることができ、本当にありがたい。大変だが頑張ってください」

「心配することはない。努力は必要だが、モデルとなる先輩の背中を見つけたら、10年後、20年後には必ずその人のそばに近づける。先輩をすそをもとに、まずはグルー

プ内で自己紹介した後、グループ以外の参加者に自己紹介を行った。

田辺氏は「建設現場では現場ごとに人が変わる。大きな声を出すことで自分の存在を認識してもらつことが安全管理につながる」と語った。

19日は(株)ランパスの東和博代表が講師となり、「建設人としての基礎・基本」をテーマに、建設業の社会的役割、建設業の基礎知識と業務フロー、安全リスク管理、建設業の5S、施工管理などについて講演する。参加者は最後に決意表明を行った。

研修の様子

